

■英国：新連立政権は原子力発電所の建設推進で合意

2010年5月12日に誕生した保守党と自由民主党の新連立政権は、原子力発電所推進の方針を表明した。連立の一角である自由民主党は選挙マニフェストで原子力利用反対の立場を掲げていたため、新政権の原子力に対するスタンスが注目されていたが、自由民主党が原子力発電所の建設に関して反対票を投じないことで合意した。また、両党の合意では、原子力発電所の建設に対する公的支援は従前の主張通り実施しないが、炭素取引市場への最低価格設定は検討する方針である。エネルギー相に就任したクリス・ヒューン氏（自由民主党）は反原子力が持論だが、英国のメディアに対して「公的支援を必要としない建設計画であれば反対はしない」と述べている。